



4月5日 本科・日本語科合同入学式

A 先生の新語コーナー



qūchǎnnéng “去产能”

過剰な生産能力の解消。李克強首相は、3月5日の第13期全人代第1回会議で政府活動報告を行った際、この問題に「中国は過去5年間、鉄鋼業・石炭業などを重点として過剰生産能力の解消に努め、鉄鋼生産能力を1億7000万トン強、石炭生産能力を8億トン以上削減した」と述べた。また、中央政府が1000億元のレイオフ対策特別資金を計上し、生産能力の削減によりレイオフ対象となった110万人余りの再配置(再就職)を実現したという。(A)

昨年10月に日中友好協会スピーチコンテスト東京大会が開かれ、その優勝者が今年1月に全国大会へと駒を進めて、中国語で自分の体験や考えを披露しました。各部門の優勝者は中国旅行というご褒美が与えられます。一般の部でみごと全国一位に輝いた2017年度の本科卒業生太田同学の旅行記です。

中国5日間の旅

スピーチコンテストの優勝賞品として中国5日間の旅がプレゼントされた。今回訪れたのは、北京、深圳、広州の3か所。個人で行くならこんなハードスケジュールは絶対組まないだろう。しかし、短期間で3か所廻ったことで、かえってそれぞれの土地の雰囲気や風土の違いに気づかされ、非常に有意義な旅となった。



まず訪れたのは北京。3月の北京は、すっきりとした冷たい空気がとても気持ちよかった。残念ながら滞在時間の関係であまり観光はできなかったが、移動中の車窓から見た街の様子は、短期留学で訪れた夏のそれとはまったくの別物で、とりわけ、枯れ枝と赤いランタンのコントラストが美しかった。

翌日は深圳へ。乾燥した北京から一転、深圳の空気は湿気を含んでいて、街路樹も南国のようだった。街の中心部には高層ビルが立ち並び、建設現場も多く見かけた。成長はまだまだ止まらなそうだ。驚いたのは、海辺(海浜公園)にも安全検査と自動改札のようなゲートがあったことだ。近所の人なのか観光客なのか、とにかく色々な格好の人が皆思い思いに過ごしていたのが印象的だった。

3日目は広州へ。広州は都会なのに、どこかのんびりした雰囲気が漂う不思議な街だった。宿泊先の沙面地区には租界時代の西洋建築が多く残されており、空いた時間にホテルの周りを少し歩くだけでも楽しめた。珠江の夜景も最高で、歴史的建造物だけでなく、新しい高層ビル群のライティングも素晴らしく、デザインのモチーフや橋の電飾など端々に中国らしさが出ていたのもよかった。

また、広州の早茶(朝の飲茶)の文化を体験させてもらったのも貴重な経験となった。土曜の朝にもかかわらず、店内には大勢の人がいて、子供からお年寄りまでさまざまな年齢層の人たちが早茶を楽しんでいた。本当に中国人の朝は早い。慌ただしいこの現代社会にあっても、こうした文化が今も根付いているのはとても良いことだと思った。

最終日に訪れた陳氏書院と西漢南越王博物館では、それぞれ異なる時代の歴史に触れることができた。これまで政治や文化の重要な拠点となってきた歴史の上に今の発展があるからこそ、広州の街はこんなにも魅力的なのだろう。

今回の旅では、中国の広さと多様性をあらためて感じる事ができた。もっと勉強して、次はひとりで行く旅をしよう。



本科を卒業した学生は、天津外国語大学との協定により、天津外国語大学3年次に編入ができます。その後2年間で大学卒業・学士が取得できます。協定が結ばれて初めての学生となる、2017年に本科を卒業し、昨年9月より天津外国語大学へ編入した宗同学からの寄稿です。

天津外国語大学 留学報告

天津外国語大学本科三年 宗俊永

天津外国語大学は天津の都市部の中心地に位置し、周りには以前戦争があった頃に欧米列強に占領された事が分かる租界があり、西洋風の建築が並んでいます。各地から観光客が頻繁に訪れているようで、中国の美容室で散髪した直後はよく道を聞かれます。おそらく周りの建造物はイギリス風だと思うのですが、中国にいながら西洋にいるような感じを味わえます。馬が街中を走っており、オシャレでインスタ映えするはずです。

自分は学期開始時期の一週間ほど前に到着し、ロビーで手続きを済ませ、入寮しました。ルームメイトは韓国人で、すぐ意気投合して仲良くなり、入寮して間もなく友達ができました。

宿舎一階にはカフェスペースがあり、生徒はそこで勉強をしたり、異国の人と交流をします。你好，你是哪国人～？といった挨拶から入り、そこで比較的多くの人と知り合うことができます。寮には中国人の学生は基本的にいませんが、欧米、中東、アジア各地から来ていて、中国語が流暢な人がたくさんいるので、語学上達にはもってこいです。韓国人の割合が多いので、好奇心のある方はここに留学来られるなら、二刀流でハングルもやったらいいかとも思います。中国人と知り合いたいという方も、毎学期に数回日中交流会があるので心配ご無用です。

授業に関しては、主に留学生が受ける国際交流学院の授業と本科生用の授業があります。僕は本科生なので中国人の学生と一緒に授業を受ける本科生の授業がメインになりますが、講義も中国人の普段のスピードで喋るのでなかなか最初は聞き取るのが難しいと感じました。とはいえ、中国語を毎日聞く環境にあるので慣れる

のも早いです、半年たった今はだいぶ聞き取れなかった部分が聞こえるようになりました。ちなみに、留学生の試験に関しては比較的聞き取ることが困難というのも考慮して、中国人学生より少し易しくなっている場合が多いです。ちなみに授業の科目は語言概括、現代漢語、古代漢語、漢字史、漢字学などといったものがあり、中国語そのものを中心に学び、結構日本に関する事も講義に出てきます。

授業を通して思ったことは中国人の学生が基本的にタフで堂々としていて、自分の意見をハッキリ言うところです、押してもビクともしなさそうな感じでした。先生との距離感も日本と比べて近いように感じます。暇な時に今から家行ってもいいですか～って電話したら普通に、いいよ～って言ってくれそうな感じです。一方で国際交流学院の授業は听力、口語、精読、閲読の4つの授業があり、そこは留学生しかいないのでグローバルな空間で中国語を学ぶことになります。精読は主に単語、文法を学びながら文章を読み進めていくノーマルな感じのもので、この授業が一番単位数が多く、この授業をとる方が多いように思えます。口語はやはり会話が中心となり、Powerpoint を使って自国の文化を紹介することが比較的多いのでノートパソコンは持っていたほうが絶対にいいです。閲読に関しては魯迅など中国文学の代表的なものを含め、村上春樹や川端康成の文章など日本作家のものを讀んだりします（僕はこの頃准高級のクラスに属していました）。听力の授業は午後にあることが多いのですが、自分は昼食食べ終わった後中国語を聞くと眠くなるのでワンクッ

ション昼寝入れて行っていました。

主観ですが日本人の視点に標準をおいているとあまり積極的になれないと思います、というのも中国での授業は積極的な発言が飛び交うことが奨励されているように見受けられるからです（日本でもそうなのでしょうけど）。

また、授業にて感じた事は、他国、欧米の方は会話が上手なのですが、声調が合っていない時が多々あります。自分は発音に関しては注意されたことがほとんどないので日中学院でご指導いただいてよかったですと思いました。

天津外大には定期的に留学生で集い、天津市内観光、万里の長城などへ行くイベントがありますので、これからこちらに留学に来て仲間の輪を広げたい人は参加することをお勧めします。

留学にはやっぱり語学学習や異文化を味わう事だけではなく、外の世界から自国を見つめ直

す機会を与えてくれることがあります。自分は留学してより日本人としての意識を持つようになりました。グローバルな意識を養うことも良いことだと思いますが、自分の国が好きな人は見ていて素敵だなと思いました。ちなみに、僕のルームメイトは国へ帰る時に必ず回鍋肉を食べるそうですよ。



図書室 だより

～オタクは世につれ世はオタクにつれ～

『中華オタク用語辞典』／『中華オタク用語辞典 式』

[同人誌] 八子著 現代中華オタク文化研究会



頭のネジが緩み始め、そろそろ介護予防をと思っていた矢先、20代の女同学に勧められた『中華オタク用語辞典』の2冊。

「これって・・・?」。シニア時代のわが身には、どうも若者流行りのゲーム解説書のようにみえる。だが読み始めるとなかなか面白い。しかも使ってみたくなった。中国朋友との弾む会話が目に浮かぶ。元

ネタ・派生・ニュアンス・類義語・活用法のほか、「解説」等では日中双方の文化に跨るオタクならではの知識が満載で感心することばかりである。ネットで話題となるやいなや大人気。東方書店東京店では



今年1月に一番売れた本と言う。思い出したことわざ、「歌は世につれ世は歌につれ」。まさに現代は「オタクは世につれ世はオタクにつれ」である。

— 新着DVDのおしらせ —

- * 『水滸伝』全6巻
- * 『清明上河圖 —北宋 首都・汴京繁盛記—』
- * 『神なるオオカミ』
- * 『1978年、冬。』
- * 『山河ノスタルジア』
- * 『罪の手ざわり』
- * 『ラサへの歩き方 祈りの2400km』

監督・脚本・プロデュースは『グオさんの仮装大賞』や『こころの湯』、『胡同のひまわり』で日本でも人気の実力派、張楊。

【内容】チベットの小さな村から聖地ラサ、そしてカイラス山へ。はるか2400kmを“五体投地”で、ほぼ一年をかけて歩く、11人の村びとのチベット巡礼旅（本DVD解説より）

5月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
		1 休校 (～5/5)	2	3	4	5
6	7 ●本科 発音補助 ●本科 学生支援 機構奨学金募集 締切	8	9 ●健康診断 (本 2・本研・日本 語科) ●本科 東京都育 英会奨学金募集 開始	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19 ●本科 東京都育 英会奨学金募集 締切
20	21	22	23	24 ●本科2年 短期 留学説明会	25	26
27	28	29 ●本科・日本語科 合同合宿 (～30)	30	31 ●日本語科 資格 外活動説明会		
<p>●6月の日中学院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日…本科 進路懇談会 ・6日…別科昼間・日本語科昼食会(～8) ・14日…本科2年定期試験(～20) ・15日…別科 公開講座 18:45～(入門) ・17日…日曜 1日集中講座 留学生試験 ・20日…本科2年 短期留学結団式 ・21日…本科2年 短研体制授業(～7/27) ・23日…本科2年 短期留学出発(～7/29) ・23日…別科269期授業最終日 別科 公開講座13:00～(入門・基礎) ・25日…別科270期授業開始(月のみ) ※6/26～6/30…休み ・29日…日本語科 進路説明会 						

講演会のお知らせ

日時：6月9日(土) 13:00～15:00
講師：小山ひとみ先生
参加費：500円

『中国のミレニアル世代とユースカルチャー』

日本と中国、台湾間の文化交流の懸け橋として、コーディネート、通訳・翻訳、ライターをして活躍されている小山ひとみ先生のお話を伺います。ご希望の方は、日中学院事務局までお申し込みください。Tel: 03-3814-3591

○湖南省京劇院日本公演

項羽と劉邦～霸王別姫

2018年6月9日(土)～17日(日)
東京芸術劇場プレイハウス(池袋駅徒歩2分)
料金：8,800円(消費税込)
お問合せ◎京劇公演事務局03-5281-8066
立ち回りの最高峰 湖北省京劇院が日本公演に限りの豪華キャストで挑む傑作です！
この機会に是非、ご覧ください。

○日本語科10月生募集中です！

2018年10月の日本語科10年生を募集中です。
ご希望の方は是非一度お問い合わせください。

○特別講座のご案内

早朝リスニング講座(担当：鄭剣華)

開講日：5月15日(火) 開講 全5回
火曜日7:30～8:30
受講料：9,250円(入学金不要)
早朝の時間を有意義に使って、中国語検定3級程度のリスニング力を鍛えます。

○日曜一日集中講座 6月17日(日)

入門講座や、発音復習クラスなど、開講の予定です。
詳しくはチラシやHPをご覧ください。
お申込みは、お電話もしくはHPからもお申込み頂けます。

○別科無料公開講座

これから中国語を学習される方など、日中学院での学習が初めての方向けの公開講座を開講します。
HPやお電話にてお申込み下さい。

- ① 6/15(金) 18:45～20:45(入門)
- ② 6/23(土) 13:00～15:00(入門・基礎)
- ③ 9/8(土) 13:00～15:00(入門・基礎)
- ④ 9/21(金) 18:45～20:45(入門)
- ⑤ 9/27(木) 18:45～20:45(入門)